

生活状態調査

一四八

江段貨物自動車合資会社 本町 一〇,〇〇〇 貨物運送 昭和四年一月八日
計 五〇四,〇〇〇

鑛 稅 鑛區數九の内採掘中のものは黒鉛鑛一に過ぎず、他は全部權利を有するもののみで、税金徴收も最も困難である。

鑛 稅 調 (昭和五年一月一日現在)

種別	鑛區數	鑛區坪數	稅 額	
			鑛區稅	鑛產稅
黒鉛	四	二,〇四二	一,二三五,二〇〇	一,二三五,二〇〇
銀	一	一,一八二	七〇九,二〇〇	一六〇,五五〇
計	九	四,〇九二	二,一九四,八〇〇	一六〇,五五〇
備考			二,三五五,三五〇	二六〇,四〇〇

備考 鑛產稅は玉溪面南山下黒鉛工業株式會社の採掘に係る黒鉛に對する分にして、昭和三年分産額一三六,〇八〇斤、價額一六,〇五五圓なり。

營業稅 昭和五年分營業稅の各業體別場數、稅額等左の通りにして、前年に比し場數二十三、稅額一割九步七厘の増加を示した。

營業稅課稅狀況 (昭和五年度)

業體別	人員	課稅標準額		稅額
		卸甲	同乙	
物品販賣	二二八	九〇一,二四八	四九三,〇六	三六〇,四九
金銭貸付	二二	三五,〇七二	一,一四〇,〇〇	四四四,八六
製造	六四	五二三,二〇八	六八〇,一七	一〇九,三三
運送取扱	三	八四,一〇〇	一五五,二七	一六四,五八
請負	八	一五,五二七	一六四,五八	一五,七三
印刷	七	一二,一〇〇	一八,九〇〇	二九八,六八
旅人宿	一	一八,九〇〇	四四,五八〇	五,七〇
料理店	七	四四,五八〇	五七〇	三,九五六,七〇
問屋	九	四四,五八〇	五七〇	三,三〇三,〇〇
計	一	五七〇		
前年	三三九			
	三一六			

酒 稅 稅額四萬八千餘圓にして地稅を凌駕し、本郡國稅中の首位を占む。現在に於ける製造場數五十七場の中、一箇場は江原道中唯一の清酒醸造業にして、大正五年十月江陵面旭町居住田口利喜藏に免

許を與へ、大正五酒造年度に於ては僅かに十四石を製造したるのみなるも、漸次業績の進展を見、大正九年十二月組合組織とし、江陵酒造組合と稱し、昭和二酒造年度には製造高百六十五石に上つた。而して將來に於ける發展を期せんが爲め、積極的經營を爲すべく昭和三年十月一日資本金十萬圓（二分の一拂込）の江陵酒造株式会社を組織し、昭和五酒造年度に於ては二百石餘の製造を爲した。

朝鮮酒製造場の集約は、昭和二年に於て邑内及び市場所在地の第一次集約を行ひ、昭和四年中更に各地一齊に第二次の集約を行ひたるもので、當時本郡に於ける朝鮮酒製造場數百八十七箇場（内二箇場は濁酒藥酒及び焼酎製造場、二箇場は濁酒及び藥酒の製造場にして、他は濁酒製造場とす）の中百三十一箇場を整理し五十六箇場に集約を行ひ、何れも相當の成績を擧げてゐる。

次に本郡内に於て消費せらるゝ朝鮮焼酎は現在五百石内外で、大部分は釜山、元山方面より移入せらるゝ、現状であるが、從來生産費等の關係上、價格に於て對抗し難き點ありし爲め、製造方法を改むべく當業者を指導し、何れも黒麴仕込室建築計畫中にして、完成の上は移入焼酎を防遏し得ると共に郡外に移出し得べく、將來充分指導獎勵の餘地あるものと思はれる。また藥酒及び濁酒の酒質の改良に付ては、麴子の改良と統一を圖るの要あるに鑑み、改良麴子組合を設立すべく計畫中である。

昭和三酒造年度査定高

種別	製造場數	査定石數	稅額
清酒	一	一九八・九八五	五、九六九・五五
朝鮮濁酒	一八七	一一、一六六・五一九	三八、九三二・八六
同 藥酒	×	四	二四・九二九
同 燒酒	×	二	一、〇二一・五〇
計	一八八	一一、一七一・五九七	四八、三三三・二〇

備考 ×印は二種以上の酒類を製造する製造場を示す。

地方稅

現在に於ける地方稅の稅種は國稅の附加稅として、地稅附加稅、所得稅附加稅の二種、特別稅として戸稅、屠畜稅、漁業稅、車輛稅、及び不動産取得稅の五種にして、合計七稅種である。各稅目別賦課物件及び稅額は左の通りである。

地方稅賦課物件現況（昭和四年度）

稅目	稅額	課物件
地稅附加稅	二七、九五九・四	地稅額 四〇、一一八・四
所得稅附加稅	八八	所得稅額 五二〇・八
戶稅	二五、〇六六	納稅義務者數 二期一四、六〇四

二、經濟事情

生活状態調査

屠宰税	三、三六〇	屠宰頭數	一、三四〇頭	稅額	一五二
漁業税	四、九〇四	免許漁業件數	八〇件	稅額	三、一七五
		許可漁業件數	二五四件	稅額	一、二四三
車輛税	二、六七三	届出漁業件數	二一九件	稅額	四八六
		自動車輛數	二一臺	稅額	六三〇
		荷牛馬車輛數	一三三臺	稅額	六六五
		荷車輛數	五七臺	稅額	一一四
不動産所得稅	四、八四三	自動車轉車	四臺	稅額	三〇
		白轉車	六一七臺	稅額	一、二三四
計	六八、八九三	土地所得價額	三四、九七八圓	稅額	三、一三〇
		建物所得價額	一九、一〇五圓	稅額	一、七二三

其他の公課金

種別	地稅割	戶別割又は附加金	其他	計
面賦課金	一八、三三七	三〇、四七六	五、四八〇	五四、二九三
學校費	—	一二、五四八	—	一二、五四八

學校組合費

計	一八、三三七	八、四一八	八、四一八
---	--------	-------	-------

備考 一、面賦課金其他の内露左の如し

營業稅割	三、三九〇
特別營業稅割	四八八
所得稅割	三七
雜種割	一、五六五

イ、面 本郡十二箇面を通じ、昭和四年度歳入總豫算九萬三千二百六十圓、之が賦課金は地稅割一萬八千三百三十七圓、戶別割三萬四百七十六圓、營業稅割三千三百九十圓、特別營業稅割四百八十八圓、雜種割一千五百六十五圓、合計五萬四千二百九十三圓、一戶當三圓六十二錢、一人當六十五錢となる。而して諮問機關たる面協議員は百十八人にして、何れも地方貢獻の念を以て職責を全ふしてゐる。

ロ、學校費 昭和四年度歳入總豫算四萬四千九百十圓、内戶稅附加金一萬一千十九圓にして、一戶平均十八錢となり、歳入總額を朝鮮人口八萬一千八百五十二人に對比すれば、一人當五十四錢となる。而して諮問機關たる學校評議會の會員は十二人にして、何れも眞摯其の機能を發揮してゐる。

ハ、學校組合 昭和四年度江陵、注文津、兩組合歳入豫算總計一萬四千八百十八圓、内組合費八千四百

十八圓、組合員二百六十三人、即ち一戸に付三十二圓三十錢、一人に付七圓七十五錢の負擔とす。又總經費の生徒一人當八十八圓八十錢となる。

納税状況

昭和四年度に於ける納税は、米作の減收（三割減）と本群の特産物にして其の代金の大部分は農家の納税資金化する、柿の不作（前年に比し三割弱にも達せず）等の爲め、地方農家の金融は極度に逼迫し、納税資金の調達に非常なる困難を來たせるも、郡農會に於ける柿の共同販賣斡旋に依る價格の高騰、其他臨機適應の措置を講ずると共に、郡の激勵と面の努力及び納税組合等の活躍と相俟つて、豫期の成果を擧揚するを得た。

納税奨励の施設に付ては、道に於ける納税表彰の外（昭和四年度道より表彰せられたるもの納税組合二、里一、個人一）、各面に於て納税奨励費を以て納税優良者等の表彰を行ひ、尙地方に模範納税組合を組織し、漸次一般に及ぼす計畫である。

納税組合状況（既設のもの）

納税組合數

二〇

組合員數 一、四七一人
 組合基本金 四七八・四〇
 組合員貯金高 二八〇・〇七

昭和四年度國稅及稅外收入徵收狀況（昭和五年三月末日現在）

科目	測定濟額	收入濟額	缺損額	未收入金	收入歩合
地稅	四〇,一八四〇	四〇,一〇一四八	—	一六九一	〇,九九九
所得稅	一一,〇四八三	一一,〇九一〇	—	七三九七	〇,六四〇
營業稅	三三,五二四七	三三,五三四七	—	—	一,〇〇〇
鹽稅	二,三五五三	二,〇九四九	—	二六〇四	〇,八八九
煙草耕作稅	四四,八三二〇	四四,五九二〇	一六〇	二二四〇	〇,九九四
酒稅	四八,〇七二六	四七,八八〇五	—	一九二三	〇,九九六
租稅計	一〇〇,三三八八	九九,〇九九七	一六〇	一,三七五七	〇,九九五
商業及官有財産收入	一八,三三〇五	一八,三二五五	—	五〇	〇,九九九
雜收入	一五,九二〇一	一四,五八六九	—	一〇,〇三三	〇,九〇一
土地拂下代	一八,一〇六三三	一八,一〇六三三	—	—	一,〇〇〇
總計	二二,七九二二〇	二二,〇七三二〇	一七〇	一三,四一〇	〇,九八九

二、經濟事情

一五五

昭和四年度地方税徴収状況 (昭和五年三月末日現在)

科 目	課定済額	収入済額	欠損額	未収入額	収入歩合
地稅附加稅	二七,九五三.三五	二七,九五九.三五	—	—	一〇〇〇
所得稅附加稅	八八.四一	一〇〇.四	—	—	一〇〇〇
戶 稅	二五〇,六六.八九	二四,九八五.四六	—	七六.三八	〇.一〇
居 宅 稅	二,九二〇.〇〇	二,八〇〇.〇〇	—	四〇.一	〇.九九六
漁 業 稅	四九,一四.一七	四三,七四.五一	—	一,九〇.〇	〇.九三六
車 輛 稅	二,六七六.〇〇	二,六三二.五〇	—	一,一〇.〇	〇.八九〇
不 動 產 取 得 稅	四,八四三.九四	二,七〇九.三五	—	二,一三三.六	〇.五五九
地 方 稅 計	六八,五三六.七七	六五,四七〇.一一	—	三,〇六六.六六	〇.九八三
河 川 收 入	五三九.六七	二七三.〇	—	二六六.六七	〇.五〇六
過 年 度 收 入	三六〇.三六	三〇七.八四	—	五二.五二	一〇〇〇
合 計	六九,四三六.八〇	六六,〇五一.一五	—	三,三二五.六五	〇.九五一

滞納状況

租稅、公課金の昭和三年度に於ける滞納状況

種 別	滞 納		納付又は收入		欠 損		繰 越	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
國 稅	三六	一,三三九.四	二五	六三九.〇	七	一,二二〇.〇	四	四八二.五四
地 方 稅	一,四〇八	三,二二一.四五	一,〇〇五	二,六八三.七九	三九	一〇,一四八	一七四	三,六二八
面 積 稅	五八四	六,八九七.六	三三七	四〇八.四八	八〇	四〇,三三五	一三七	二,四一〇.三
學 校 費	三〇九	四,八九四	一七	二七.二四	一六八	一六,三三四	二四	五,四六
學 校 組 合 費	六七	六,三七七	四五	四,五二〇	四	五,二九	一八	一,六二八
計	二,四〇四	五,六五八.六	一,五五九	四,三三三.八一	四八八	一七,四五六	三五七	一,三二七.四九

備考 滞納者の主たるものは怠慢、金策不如意、貧困、轉出等に依る。

國稅犯則者

昭和四年中に於ける國稅犯則者に對する處分状況

稅 目	疑 犯 人 員 數		通 告 人 員 數		直に告發したるもの(有罪)		不服行に依る告發人員		通告又は告發未済人員		通告したる不服行人員	
	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	
酒 稅	一三五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
煙草耕作稅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
甲 紙 稅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	一三五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

二、經濟事情

生活状態調査

計 内 八七 内 五一 内 二 内 一四七 内 一五八

罰料金及び処分費

税目	罰金		料		計	処分費
	内	外	内	外		
酒税	三五八〇	五〇	八		三五九〇	内 四・八〇
煙草耕作税						内 二・七二
印紙税			一六八		一六八	内 一・六〇
計	三五八〇	五〇	一七六		三五九〇	内 四・八〇
備考	内書ものは前年度分未済にして、本年中処分完了せしものなり。					

租税公課負擔状況

負擔總額二十四萬四千餘圓にして、郡内總戸數に對する平均負擔額一戸當十六圓六十一錢六厘、一人當二圓九十三錢九厘にして左表の通りである。

種別	負擔額	一戸當		一人當
		額	圓	
國稅	一〇〇,三二八	六,八三一	一,二九六	
地方稅	六八,四四六	四,六六〇	八二四	
面費	五四,二九三	三,六九六	六五三	
學校費	一二,五四八	八六五	一五三	
學校組合費	八,四一八	二九,六四〇	七,七五一	
計	二四四,〇三四	一六,六一六	二,九三九	
江原道	二,八四一,六八八	一一,六二五	二,一八一	
朝鮮	八一,一六九,九二一	二二,四三四	四,二四一	
内地	一,四二三,一九四,二四四	一一八,六〇三	二二,八二五	
備考	一、昭和四年十二月末日現在の郡内戸口は戸數(世帯)一四,六八六、人口 八三,〇二三である。			
	二、負擔額割合中學校費は朝鮮人、學校組合費は内地人の戸口數に依る。			
	三、江原道及朝鮮全道の平均は昭和二年度分に依り、内地は大正十四年度分に依る。			

金融機關

江陵郡内に於ける金融機關の普及は未だ不充分にして、一般に富の程度高き割合銀行、金融組合等の預金少く、殊に農業及び漁業等の小口には逼迫を感ぜるものが少くない。現在金融機關としては、江陵邑内

二、經濟事情

に殖産銀行江陵支店あり、金融組合は邑内に濱州、江陵の二組合、地方に玉溪、注文津の二組合あり、この地方に於ける金融の樞軸を爲して居る。

殖産銀行江陵支店金融状況 (昭和四年末)

定期預金	同上人員	當座預金其他	同上人員	預金受高	預金拂高	諸貸付金
六一、五八八円	四六	八六、九二七円	二二七	二、九六一、五三五円	二、九七七、八二四円	七九八、七四一円

金融組合状況 (昭和四年末)

出資金	組合員数	貸付金	貸付口数	貯金受高	貯金拂高	貯金人員	預金	貸付率
2,525,595円	2,700円	2,277,707円	2,186	1,233,243円	1,210,333円	7,045	最高年五分一厘 最低年六分五厘	最高年四分一厘 最低年八分

郵便局所取扱ひ貯金、爲替、振替貯金成績 (昭和四年末)

受貯高金口数	振替高金口数	爲替高金口数	振替爲高金口数	爲替爲高金口数	振替爲高金口数	爲替爲高金口数	振替爲高金口数
37,556円	25,886円	22,210円	2,525,595円	2,277,707円	2,186	1,233,243円	1,210,333円

貸付業者一覽表

業種	昭和三年			昭和四年		
	受入	拂出	現在	受入	拂出	現在
貸屋業	三	五,五五三円	五,四三七円	三,三〇〇円	一〇,四五〇円	七,〇二四円
個人金融業	二六	二六,四五六	四〇,三三二	四二,八二六	三五,四六六	四九,〇〇〇
備考	本郡には産業組合無し。					

貸付利子 (個人の分)

業種	貸出金利率			備考
	最高	最低	普通	
貸屋業	一七.〇〇	六.七〇	一〇.〇〇	元金百圓に對する日歩
個人金融業	二〇.〇〇	五.〇〇	八.〇〇	同

貸付期間其の他の條件

賃屋業 貸付期間は普通三箇月であるが、貸付期間を経過する場合には毎月の利子を支拂ひ、擔保物の流失を免るゝを以て、事實に於ては期間無きものと同様である。

個人貸付業 信用貸は貸付金額の多寡に不拘六箇月以内、擔保貸は一年以上二年以内なるを普通とする

が、借用人の信用程度及び擔保物の品質、種類の良否如何に依りては多少之を異にすることあり、而して貸付契約は様式一定ならざるも、書面を以て爲し、擔保物は大抵不動産にして、抵當權設定の登記手續を爲すのである。

三、部落の現状

部落の構成

江陵郡は脊梁山の東部、日本海に面する地方に位置する關係上、西部は大山高峰群立して人家少く、部落は海岸線に近き平坦部に多く構成されて居る。市街地としては、僅に江陵・注文津を算するに過ぎず、玉溪の如きは部落として稍大なるものに屬する。交通の不便なりしたため、郡内一般に市街の發達は遅いやうであるが、村落は同族部落の多いためか、人家の密集せるもの極めて多く、その集團も他の地方に比して概して大なるものあり、地勢の海に向つて急傾斜せるために、海岸線數里を隔つる地域に於て、比較的進歩した集約的農耕が行はれ、部落の分布と人口の密度が東部の平地帯に偏して居る。各面の地勢及び部落の分布並に各部落の戸口數に就き、併て臨時土地調査局に於て、大正四年頃調査したものを掲げて見やう。その後、に於て面の廢合が行はれ、江陵は指定面となり、従つて町洞里の改正もあり、多少現在とは行政區劃を異にして居るが、この地方には未だ鐵道の開通の如き經濟上急激なる變化を見ざるを以て、村落に於ける部落の構成には今日と雖も左まで著しき變化はないのである。江陵郡は脊梁山脈以西の諸郡と異

城南面

山岳	河川
鷹峰山脈 七星山脈 下井面金光坪から東面淡山・博月里を連瓦す 長観里泥谷洞の東方に壁立す 淡山里瓦洞を東方に壁立す 長観里玉峰洞西方に壁立す 長観里龍岡北方に壁立す 初山里北方に清秀す 外申石里西南に清秀す 淮山里俊芳洞東方に清秀す 淮山里西南方に清秀す 淮山里西南方に清秀す 本面の西北に満つ	南大川 本面長観里上部へ一脈、同里玉峰洞上部へ一脈流れ来りて同里向水坪に至る 本面博川里橋洞前に満つ
茅山峯 徳宇峯 玉峯 陶隠峰 望月峰 玉女峰 羊腸峰 八鴨山 首陽山 茅山川 橋洞川	南大川 茅山川 橋洞川
八二 三二 二五 九八 七	八四 二二 三三 一八 五〇 一
四八八 二二 四七 四五 八	四六八 三四 一六 九三 三七

長観里

長観里	玉峰洞	龍岡	望月峰	玉女峰	羊腸峰	八鴨山	首陽山	茅山川	橋洞川
八二	三二	二五	九八	七	八四	二二	三三	一八	五〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

博月里

博月里	外申石里	幼山里	門巖里	魯巖里	阿竹里	塔里	内谷里	淮山里	德方山
博月洞 三馬洞 三尾洞 八二 二五 九八 七	外申石里洞 六一 二四	幼山里洞 五一	門巖里洞 五八 四九	魯巖里洞 四七 二六 七四	阿竹里洞 四〇	塔里洞 二九 一八	内谷里洞 四〇 三三 三四	淮山里洞 七五 六六 九	德方山 四五六 四〇 四九
四八八 二二 四七 四五 八	二八 九	三四 七	三五 三 三〇 二	三七 七 九 六	二二 七	一四 〇 一三 九	二三 五 三〇 三	四五 六 四〇 九	

三、部落の現状

二、部落の現状

三、部落の現状	松巖里	渭村里	普光里	於乾里	五峰里	邱山里	觀香里	金山里	城山面
	松巖里	渭村里	武三普水	濟屈釜於	五峰里	邱山里	觀安古觀	金山里	河川
	里	里	逸旺光錢	民面乾	峯山	山	宿谷谷香	山	南大川
	里	里	洞洞洞洞	洞洞洞洞	里	里	洞洞洞洞	里	東面東南を流る
			一三〇	八四			九一		
	七八	二六	三三三三八八	二六七一〇	五四	一七	一三三五	一一三	
			七七三	五〇四			五三八		
	三五五	八一八	一一八五二	一五四八二	三四〇	六三二	三一九九	七五〇	
			〇五六二	六二六〇	〇	〇	八三二五	〇	

二、等道路
 五、雲山脈
 大、關嶺
 大、弓山
 陵、觀峯
 五、峯里の西方
 普、光里の西方
 於、乾里の西方に變立す
 本、面を西北方に連互す
 金、山里・邱山里を経て於乾里に至る

笠岩里	柄山里	鶴洞里	甘浦里	斗山里	南項里	月呼里	外雲山里	青良里
虎牛李廣李	鳥谷書平	防南鶴	堂甘	栗白斗	南項里	月呼里	洒外	下間上
子汀碑	堂	築	洞	石山	項呼里	呼里	雲山	青良
洞洞街里亭	坪洞洞地	街洞洞	洞洞	洞洞	里	里	里	良谷
六九	六六	三五	三五	五九			二七	六六
八九六四二	一五三〇二	四四七	〇五	二二二三五	六三	四七	二四三	三三三九
四二五	三九五	二〇九	二〇五	三七六			一三五	三六〇
〇一二三四	二六〇	二八〇	五五〇五	三八六〇〇	二七二	二五四	一二五〇	三〇六九五
八四九〇四	四四〇七	〇四五						

河川 南大川 青良里、月呼里間を流れ南大川に合流して入海す
 本面笠岩里・斗山里・柄山里・南項里に流れ入海す

生活狀態調査 一六八

道路

三等道路

江陵郡城山面五峰里より本面都麻里・木界里・松峴里・高丹里を経て旌善郡聚溪里に至る

等外道路

城山面五峰里より本面旺山里を経て大基里に至る

高丹里より九切里及び南谷里を経て旌善郡北面餘粮里に至る

大基里より高丹里にも至る又は旌善郡道岩面水下里にも至る

大關嶺脈 本面を西南に連亘東北に回轉す

聖登岳 都麻里衣倉洞西に聳立す

挿堂嶺 木界里博岩洞南に聳立す

石頭峰 木界里仙人洞南に聳立す

凌項峰 旺山里北に城山面五峰里間に聳立す

西得峰 旺山里西に聳立す

孟徳峰 (或花暖峰) 鷄項洞東北に聳立す

活人峰 鷄項洞北

玉女峰 般渡洞南

老人峰 坪村洞西南に聳立す

祖願峰 般渡洞南に聳立す

魯鄒山 九切里中央に聳立す

五將山

旺山面

山脈

江陵郡城山面五峰里より本面都麻里・木界里・松峴里・高丹里を経て旌善郡聚溪里に至る

城山面五峰里より本面旺山里を経て大基里に至る

高丹里より九切里及び南谷里を経て旌善郡北面餘粮里に至る

大基里より高丹里にも至る又は旌善郡道岩面水下里にも至る

大關嶺脈 本面を西南に連亘東北に回轉す

聖登岳 都麻里衣倉洞西に聳立す

挿堂嶺 木界里博岩洞南に聳立す

石頭峰 木界里仙人洞南に聳立す

凌項峰 旺山里北に城山面五峰里間に聳立す

西得峰 旺山里西に聳立す

孟徳峰 (或花暖峰) 鷄項洞東北に聳立す

活人峰 鷄項洞北

玉女峰 般渡洞南

老人峰 坪村洞西南に聳立す

祖願峰 般渡洞南に聳立す

魯鄒山 九切里中央に聳立す

五將山

河川

士達山 九切里東
徳尤峰 高丹里南
鷹峰 高丹里橋洞西
徳在峰 松峴里北
都麻川 都麻里北
木界川 木界里北
般渡川 大基里西
下九切川 九切里西

都麻里

鳥峴衣塔石入 高脚池
鮮田食 洞
洞 洞 洞 洞 洞

一五〇

二五一一二
八八六九八

九〇〇

一一三
〇五六八七〇
七三六九七八

木界里

盤方沙 器基店 池基店 池基店
馬仙方 器基店 池基店 池基店
入馬仙方 器基店 池基店 池基店
寄博入馬仙方 器基店 池基店 池基店
九寄博入馬仙方 器基店 池基店 池基店
平九寄博入馬仙方 器基店 池基店 池基店

一〇〇

一一一
八六五四〇七三六〇

五四二

一一一
三〇二二五三六二二
七二四五七八四九〇六

三部落の現状

内 高丹洞

一七一

三、部落の現状

鶴山里	余贊里	下邱井面			旺山里
石山	余馬自	河川	山岳	山路	高孟眠黒紫立長坪大
泉山	贊山趙山	余贊里前川	淡頂山	七星山脈	佳橋寒風船新坪
洞洞洞	洞洞洞	鶴山里前川	本面済飛里西と山北里東に聳立す	本面西南を連互す	樓徳狗 蓮菜財 榮 基吹波基村
一一一	八九	金光里前川	本面餘贊里より鶴山里を經て城南面茅山に至る		洞洞洞洞洞洞洞
一八九	五一一	彦別里前川			洞洞洞洞洞洞洞
六七五	四九〇				八四
五九二	三二四				二三二九六九九七七九
五九二	三二四				四三六八七八五
一七三	三二四				四五七
	三二四				四三三三〇一
	三二四				〇七六六五四三
	三二四				六一四七一八三

舊名嶺山

大基里	南谷里	九切里	松觀里	高丹里	生活狀態調査
小大鷺樓板新桃	升北前劍高	佛琴子長高下種寺士守中	外内碧花	大間橋沙	
龍龍項 慕旨花	岩 沙	堂 關坪	松松	石實 洞 盤	
洞洞洞洞洞洞洞	谷飯谷洞里	洞洞洞洞洞洞洞洞洞洞洞	洞洞洞洞	洞谷洞洞	
三五二	四六	一一三	三八	九八	
一一三一一二	一一一四〇	一一一四〇	一一一四〇	一一一四〇	
二二二二二二二	三三七七六	八五九九三三六四五五六	六八二二	三七三二	
一九三七	二六五	五九三	一三四	二七二	
七四六六五九〇	七 四四九	四八〇五一八一	五五一一	三二八七	
二〇四二八三八	九九一四二	七八〇一一二九七七〇一	六八〇〇	二〇一七	
					一七二

三、部落の現状

上 時 洞 里	雲 山 里	申 石 里	江 東 面	
祖碑鷺齋王上榑榑	内魚龍波背	龍舌文柳佳	河 川	山 岳
石岑宮 後 日	丁波瀨龍	明道松川鶴	淡 項 川	淡 頂 山
谷街里洞洞浦谷洞	洞街洞洞洞	洞洞洞洞橋	林 谷 川	朝 願 峰
一三三	四八	六一	林谷川	望 德 峰
三四 一三 三六三三二二五〇	三 一六七三二	一一一 六六八五六	茅田里に至り林谷川と合流して孫仙江に入る	彼 來 山
七一八	二七二	四〇六	林谷里を中斷横流す	茅 田 里 藏 跡 洞 南 に 特 立 す
一二三 一六二五 一九三一一六二五 六五五五〇九六二	二 六三四一 二七九六八	一三〇 一六四九	本面安仁大洞里南に流る	山 城 里 南 に 雙 立 す 掛 榜 山 (<small>安仁小洞里南</small>) に 躰 躰 す

山 北 里	注 別 里	濟 飛 里	邱 井 里	德 觀 里	於 丹 里	金 光 里	生 活 狀 態 調 査
松南龍自山	淡藏可彦	餘澤閉上	邱	樓德	金玄東於	寺新店金	文金
來溪飽斗	景跡屯別	花淮	井	月	光川幕丹	堡	光
村洞洞洞洞	洞洞地洞	田洞臺山	里	洞觀	坪洞洞洞	村里村洞	洞坪
七七	一四四	九八	五九	七一	一六〇		
一一三 〇二三九三	二一四六 四七三〇	三一四 六七四一	九一	三二〇九	五 二七三九	一二三八 七三七三	四四
四四三	八八七	五三三	三七〇	三九四	七三八		
一一二 〇五〇七一	一一三 五一五五 二九七九	一一二 四九九〇 二一三七	四九九	二一〇六 六四	三 三一三 七四五八	一一三 八三八三 三一八六	二二 二六九

雲山里・上時洞里・山城里を経て玉溪界栗峠に至る

三、部落の現状

川南里	縣内里	玉溪面	正東津里	山城隅里	安仁小津里
新聞經東	前枝城中上	河山山道	深正古燈城	彼明彌山梧	大坪松
菜坊山		川岳脈路	谷東城明	來溪木城耳	浦
洞村洞洞	洞洞村洞洞	沙萬德峰川	洞洞洞洞	谷洞洞洞	内村村
七	一九四	縣内里前に流る樂豊川は樂豊里の前を流る	一二五	四九	七八
一一二一 一七五八	四三二三四 六二八九九	北洞里の西方に獨立す	三五一一 三三八二六	四八二三二	二一 四六六
四一七	一〇六〇	本面を西北に連互す	六二三	二四九	四二五
七九五九 四五三五	四六二八四 八二五一四	樂豊里を経て道直里に至る	五六九七三 七七二六一	二四一六一 一〇五二	二四八 〇三七

生活状態調査

安仁大洞里	茅田里	林谷里	道洞里	下詩洞里
津鹽大	藏窟山美坪新後眞石	大大寺齋寒偉栗大	島道	梨中殿虎前後長魯
田	跡馬頭	遊坪來宮木水	木木藏	堂
村	里蠶谷村村里谷地洞	峙洞洞洞泉項亭院	項洞	洞里洞谷浦浦谷谷
一〇〇	一〇九	九二	五〇	一二五
三六三 二九一	三三一 四二〇一八二六九七	一九九四七六九七	三二〇〇	一一三二 二一六〇五九二〇
五三〇	六二八	五七三	三五六	七〇一
三一六 六六五	二一五六一六三一四 三一七四七七五三一	六一一二四三一四 八七九六三九九二	三一四 四二	六一三五四六六五 七八四六〇三七六

德沙山方美板石苜	川帶	洞	老	橋	橋	洞
津里	里	里	里	里	里	里
津	鴻水尊山芝	揮加旺富方	德杏深美	趙荷梨板	仇石	眞硯石後苜
	帶	雅屯相洞	寬村老	富坪雪橋	羅橋	木邊龜洞
里	洞洞洞洞洞	屯地洞	二洞洞洞洞	頂洞堂洞	味里	亭里洞洞洞
	八六	八九	一四二	一七五	八九	一三八
六八	三二八三〇	二七六〇四	八一四二一八一	一六三六一八三三	三五二七二	二三一三二三四五七九
	四六八	五〇一	八〇六	九八二	三二三	八〇〇
三八六	一五三二四二八二五一	六一九二〇一四五六五	四九五三三一五〇六	六三三三六四六六	二九二八五	三九〇二四一三五五六

沙器森里	沙川而	杏園大助亭那榆	亭谷田山洞	觀	川	生活狀
	河山山道	里里里里里	里里里里里	里	里	調査
小無武龍沙	川岳			城紫亭	文陽洞	
無悔洞洞洞	沙萬城鷹一、二等道路なし			村陽	山村觀	
洞洞洞洞洞	本面沙器森里龍洞洞より東海に流入す			洞洞洞	洞洞洞	
	一二九			七六	八九	
	一九八			三三三三三三三三	三一四三五	六〇
	七八四			四八一	五二六	
	六			四四九	二六四	三六九
	四一〇九二			二二七	八一七	一八二

生活状態調査

連谷面

河	山岳	山脈	道路
青鶴洞	松川洞	釜淵洞	釜淵洞
	釜淵洞	釜淵洞	釜淵洞
		釜淵洞	釜淵洞
		釜淵洞	釜淵洞

本面中央より流下す

塔峙山

三山里豚峠洞西北に在り

青鶴洞内洞西南に鑿立す

新旺里馬音城西南に鑿立す

水青洞口に鑿立す

三山里の西方、本面界旌善郡道巖面界に跨居す

本面西南を連互す

南から沙川面より冬德里市場を経て新里面界に至る

三、部落の現状

坊内里	松林里	新旺里	退谷里
領津里	枝洞里	坊内里	冬徳里
領津里	枝洞里	坊内里	冬徳里
領津里	枝洞里	坊内里	冬徳里
領津里	枝洞里	坊内里	冬徳里

領津里	枝洞里	坊内里	冬徳里	下草柴洞	上草柴洞	下松林里	上松林里	柯坪里	杏亭里	馬音里	富基洞	泥峴洞	新旺洞	柳後里	店街里	岩泉洞	退谷里	水青洞	求季洞
三五	一八	一〇	一七	一四	一八	四九	四四	五三	五一	二五	二七	二六	〇〇	〇〇	九六	一七	一五	三一	〇一
一三五	一八四	一五〇	一七二	一三二	一三八	三三八	二四九	二七九	二七七	三九〇	一五八	四二二	一五四	三三五	一五六	五九五	一七五	一三五	一五六

新里道 三道路
 山脈 上臺山脈
 岳 天馬峰
 北面西方に變立す
 金龍洞南方に變立す三兄弟峰・塔峙山
 北から襄陽郡により香湖里訪鶴洞注文津を経て連谷面に至る

注	香	三	長	橋	新
文	湖	橋	と	項	里
里	里	里	里	里	山
訪斗五注	巨古槐香寒香	三新香弓水沙	齊源老五城	堤鷹金橋長	山脈
鶴巖里文	馬文南泉湖	街寺田々橋器	宮基里笠	長鞍龍項城	岳
洞津津	洞洞洞洞洞	洞洞洞洞洞	洞洞洞洞洞	洞洞洞洞洞	天馬峰
二五七	一四七	一〇二	一五九	二〇四	本面西方に變立す
二三五四 九〇六二	一三一四 七四九六七四	一一二一三 一八一八四九	三一三七 〇三四五七	二五九二 七六四五二	金龍洞南方に變立す三兄弟峰・塔峙山
一、二七二	八七三	五二二	九五五	一、一三五	北面西方に變立す
一一三六 四二〇九 五二七七	一一二二 九一六九八 〇二六三八四	一一一四 五四二四七六 九九四八七四	一一四 八六二三四 三八五〇九	一一三五 二三三四〇 五三〇四三	北から襄陽郡により香湖里訪鶴洞注文津を経て連谷面に至る

町洞里別戸口

右の調査に據ると、平地部、海岸部、山間部に於ける部落の分布、及びその戸口数の大小等が、自ら明かになつて居るが、更に昭和四年末現在の各面の町洞里別戸口数を見ると左記の通りである。

町洞里別戸口 (昭和四年末現在)

面名	里名	戸数	人口	面名	里名	戸数	人口
江	大和町	一〇六	三八五	江	浦南里	一四六	九一四
同	大正町	二二〇	一、一六八	同	草堂里	一五五	七九九
同	本町	八五	三三四	同	江門津里	四二	二四九
同	龍岡町	七九	三五六	同	松亭里	一三五	七九二
同	龍岡町	一七五	八五六	同	見台津里	七一	三八〇
同	龍岡町	一〇五	九〇七	同	魯岩里	一四〇	八三二
同	旭町	三四八	一、七五七	同	内谷里	七八	四三五
同	玉川町	三三〇	一、一七一	同	淮山里	九三	五三九
同	洪濟里	一八九	一、二三七	同	長觀里	八五	四九二
同	校洞里	二四〇	一、一〇七	同	淡山里	八〇	四〇七
						一八七	